

【羽村市】1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

国では、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」を令和の日本型学校教育の姿とし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を進めるとしている。

羽村市教育委員会では、学校教育のグランドデザインとして「はむらの学校教育」を定め、“全ての子供のよさと可能性を引き出し、伸ばす”教育を進めることとしており、また、「はむらの授業指針」においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実践にICTを活用することとしている。

1人1台端末をはじめとするICT機器は、教育活動の目標を達成する手段の一つであり、児童・生徒にとって、高速ネットワークにつながる1人1台端末は文房具の一つに過ぎない。大切なことは、日常の学習活動の目標を達成する手立てとして、効果的な場面で、最適な方法を自ら判断してICT機器を活用する力を育てることである。そのような学びを積み重ねることで、学習活動や学習機会の充実、一人一人の児童・生徒に寄り添ったきめ細かな指導の推進を図り、“全ての子供のよさと可能性を引き出し、伸ばす”教育を実現していく。

2. GIGA第1期の総括

羽村市教育委員会では、令和2年度にGIGAスクール構想の実現に向け、1人1台端末を配備するとともに、市立学校全10校において、それぞれネットワーク環境の整備を行った。

GIGA第1期において、学校では、授業の内容に応じ、1人1台端末を利用したグループワーク、調べ学習等を行うとともに、各種アンケートなどを実施した。教育委員会では、1人1台端末の積極的な活用を進めるため、各学校の教員及び教育委員会指導主事で構成する学校DX推進委員会(情報教育推進委員会)を開催し、実践事例の共有や実践方法の検討を行い、学習活動における効果的な活用の普及を図った。また、GIGAスクールサポーター及びICT支援員を配置し、1人1台端末の適切な管理・運営、クラウドサービスの効果的な利活用を推進した。

さらに、複数学年の教科学習ができるAI型の学習支援ドリルを導入し、1人1台端末を活用した家庭学習の促進を図るとともに、児童・生徒の進度に応じた学習の実施、学習の深化を促進した。また、不登校児童・生徒への支援として、1人1台端末を活用し、不登校児童・生徒等が自宅等からの授業を視聴できる取組やバーチャル・ラーニング・プラットフォーム事業へ参加できる取組を実施したほか、外国にルーツのある児童・生徒等が放課後等日本語教室参加する際には、1人1台端末からオンラインで受講できるよう取り組んだ。

端末の導入から複数年がたち、利活用が日常化するにつれ、同時に多くの接続がある際のネットワーク接続の困難さや、端末本体の不良及び破損の発生、学習に関係ないサイトへのアクセスなどの課題が発生し、第2期では、それらの課題を解決するために、ネットワークアセスメントの実施、堅牢性のある端末の導入、フィルタリングソフトの導入などを行うこととしている。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第1期での実績を踏まえ、第2期では、更新する児童・生徒向けの1人1台端末の環境を引き続き維持することを前提に、以下の取組を行う。

● 1人1台端末の積極的活用

児童・生徒が確実に学習の目標を達成できるよう、デジタル教科書やデジタル教材、導入しているクラウドサービスの積極的かつ効果的な活用を図る。そのため、教員の1人1台端末を活用した授業力の向上に向けた連絡会の開催、ICT支援員の配置を継続して行う。

● 個別最適・協働的な学びの充実

これまで同様、授業における調べ学習や、児童・生徒が自分の考えやグループの考えをまとめ、発表・表現する場面での利用を進める。また、自分の理解度や進度に合わせて自ら学習を進められるよう、学習支援ドリルの活用を推進する。

● 学びの保障

これまで同様、不登校児童・生徒等の支援として、不登校児童・生徒等が自宅等からの授業を視聴できる取組の実施やバーチャル・ラーニング・プラットフォームへの参加促進を行う。また、心のアンケートなど、児童・生徒の心身の状況把握の際には、1人1台端末を活用し、学校外からの回答も可能となるよう実施する。そのほか、外国にルーツのある児童・生徒等への支援として、多言語対応の学習サイト等の活用を図る。